

2024年度 大阪中学校ソフトテニス選手権大会 競技上の注意

- ・競技は日本ソフトテニス連盟の「ハンドブック」及び大会要項にしたがって行う。
- ・個人戦はコート割りせず、左の列・右の列を上から順番に入れていくが、進行の都合上対戦が決まっている試合を優先させるなどして、順番が前後する場合がある。
- ・団体戦は当日配布する進行表通り進める。ただし、状況により変更する場合がある。また、団体戦においては、3面展開になる場合もあるため、放送に注意すること。

競技について

- (1) 服装には常に気を配り、袖まくり、ズボンをさげてプレーすることなどがないように心がけること(警告の対象とする)。また、必ずテニスシューズを着用し、規定のゼッケンをつけること。
- (2) 連続的にプレーを行うこと。特に、チェンジサイズ時の1分間のインターバルについては、45秒で「レッツプレー」をかけます。さらに15秒後(「ゲーム。チェンジサイズ」のコールの後1分後)には、次のゲームに入る態勢をとること。(警告の対象とする)
- (3) ベンチは、番号の小さいチーム・ペアを入口側とする。 ※イス・ベンチの持ち込み可(指定された場所とする)
- (4) 試合前のあいさつは、お互いネットに近づいておこなうこと。
- (5) 試合前、1分間程度のラリーを認める。ただし、アンパイヤーの「レディ」のコール後、速やかにプレーに入ること。
※進行状況により省略することがある。
- (6) 個人戦の審判は第一試合のみ指定し、その後は敗者審判とする。団体戦については、審判を指定する。
- (7) 試合に勝ったチーム及びペアのうち一名は、採点票をすぐに本部に持ってくること。その際、審判を伴って報告に来ること。
- (8) 特別給水(2ゲームめ・4ゲームめ終了後及びファイナルゲームの2回め以降のチェンジサイズ時)を行う際には、そのゲーム開始前にプレーヤーが自ら水筒等を審判台の下に運ぶこと。また、特別給水時は給水のみを行い、ペア同士の打ち合わせなどはしないこと。※ヒートルールは、状況に応じて本部の判断で適用する。
- (9) 個人戦・団体戦とも、試合が連続する場合は、最大10分間程度のインターバルをとる。ただし、天候等の理由により短縮する場合もある。

団体戦について

- (1) 各日初戦は3対戦すべて行う。以降は、どちらかが2勝して勝負がついた時点で打ち切りとする。(※リーグ戦は、原則3対戦全ておこなう。)←今年度は実施しない
- (2) オーダーは対戦相手が決定した後、10分以内に本部オーダー受付係に監督が提出すること。提出されない場合は、5分経過ごとに警告1回とする。
- (3) サービス(レシーブ)とサイドの決定は、3ペアともに本部で行うことを原則とする。ただし、開会式後の第一試合等はコートでのトスとなる。その際、双方の監督でオーダーならびにゼッケンの確認をお願いします。
- (4) コート上で円陣を組むことは遅延行為とみなし、警告1回とする。
- (5) アンパイヤーに対する質問は、監督またはプレーヤーが行うことができる。ただし、異議申し立てをすることはできない。また、ひとつの事柄について質問は1回とする。

個人戦について

- (1) アンパイヤーに対する質問はプレーヤーのみ行うことができる。ただし、異議申し立てをすることはできない。また、ひとつの事柄について質問は1回とする。

監督ならびにコーチについて

- (1) ベンチ入りできる監督は1名のみとする。
- (2) 団体戦の初めと終わりのあいさつは監督もコート(最も審判台寄り)に整列すること。
- (3) マッチ内で選手にコーチする場合は、チェンジサイズおよびファイナルゲーム前のインターバル1分以内とし、ベンチ入りしている監督またはコーチが行うこと。
- (4) 団体戦で2面展開になった場合は2面の間で、3面展開になった場合は中央のコートでコーチを認める。なお、その際監督は、立ち上がることなくベンチに座って助言を行うこと。
- (5) 個人戦で、同一校複数ペアが同時に試合に入った場合、監督がひとつのコートベンチを離れ、他のコートに移動したときは、再び元のコートベンチには戻れない。
※隣接するコートについては、規定の時間内での助言は可とする。ただし、選手が移動すること。

その他 応援等について

- (1) 団体メンバーや関係者(監督を含む)の声をそろえての応援はできない。
- (2) マッチ中のプレーヤーの発声は認めるが、マナーを尊重し、相手を不愉快にする態度または発声をしないこと。
- (3) 審判員は、イエローカードの事項が2回発生したときは、試合を止めて本部に報告すること。
- (4) ベンチでの傘(日傘を含む)の使用を認める。ただし、光を反射する色(白・銀など)のものについては認めない。
- (5) 熱中症対策として、審判員も適時、水分補給を行うこと。(チェンジサイズ時等を活用)